

予防接種及び注射、採血等の医療における穿刺行為後の  
長期間持続する痛みに関する調査研究の実施について

厚生労働省健康局  
結核感染症課  
疾病対策課

【背景】

- 子宮頸がん予防ワクチンの接種後に、注射部位に限局しない痛み（筋肉痛、関節痛、皮膚の痛み等）、しびれ、脱力等があらわれ、長期間持続する例が複数報告されている。
- 現時点ではその病態やワクチンとの因果関係は明らかになっていない。
- 一方、予防接種以外の注射や採血などの医療における穿刺行為後に長時間続く痛みを伴うことが知られており、予防接種後及び穿刺行為後の長時間続く痛みに関し、その病態やワクチン・穿刺行為との関係を調査分析するとともに、併せて適切な医療を提供する目的で、以下の調査研究を実施することとする。

【研究の概要及び枠組み】

- 今年度、以下の2つの研究班において、予防接種及び注射、採血等の医療における穿刺行為に伴う痛みに対して専門の診療を行える拠点医療機関（大学付属病院）を全国複数箇所指定し、受診した対象患者の臨床情報を取りまとめ研究班において分析する。

候補医療機関（未確定）（計16大学病院）（※は各班取りまとめ大学）

池田班関連医療機関：北海道大学、※信州大学、名古屋大学、山口大学、愛媛大学、鹿児島大学

牛田班関連医療機関：札幌医科大学、福島県立医科大学、東京慈恵会医科大学、東京大学、順天堂大学、  
※愛知医科大学、滋賀医科大学、大阪大学、岡山大学、高知大学

- 事業名：厚生労働科学研究費補助金 慢性の痛み対策研究事業
  1. 研究課題名：難治性神経因性疼痛の基礎疾患の解明と診断・治療精度を向上させるための研究  
研究代表者：池田修一（国立大学法人信州大学医学部内科学教授）
  2. 研究課題名：慢性の痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療のための医療システム構築に関する研究  
研究代表者：牛田享宏（愛知医科大学医学部学際的痛みセンター教授）
- 拠点医療機関の確定や調査項目・連絡体制等を整理した上で、今秋を目途に開始する。

【予防接種後の症例に関する情報収集の方法】

- 医師が、予防接種後に同部位に限局しない長時間続く痛みを訴える患者を診察した際は、必要に応じ上記の拠点医療機関を紹介する。また、患者本人の希望に基づき中核的な医療機関での診療も可能とする。
- 国が予防接種後の副反応報告で上記の患者の報告を受け取った場合は、必要に応じ、報告医を通じ拠点医療機関への受診を促すと同時に、拠点医療機関からの情報も副反応の評価に供す。
- 拠点医療機関への紹介に際しては、「NPO 法人いたみ医学研究情報センター」の協力を得る。